

最新形ロボットによる物流作業支援デモラインを設置

日本は今や世界最大のロボット大国ですが、ロボットの用途は依然として自動車関連を中心とした製造業分野がほとんどです。一方、我が国は少子高齢化による労働力不足に直面しつつあり、様々な分野へのロボット導入が期待されていますが、なかなか進まないというのが現状です。そこで当社は、従来手掛けていなかった製造業以外でのロボット市場の創出・開拓を推進・加速するために、三井物産（株）殿と昨年業務提携し、40社を超える様々な業種でのヒアリングを行いました。その結果、現時点では物流

分野に於けるニーズが最も高いと判断し、今回小形仕分け装置トップメーカーであるホクショー（株）殿の協力を得て、従来は人手に頼っていた仕分け装置への商品投入作業をロボットに代替するデモラインを石川県白山市のホクショー白山工場に設置しました。設置したロボットは当社の7軸双腕ロボットMOTOMAN-DIA10で熟練作業員と比較して遜色無いレベルのパフォーマンスを実現しております。

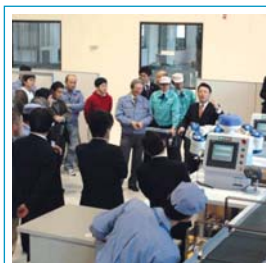
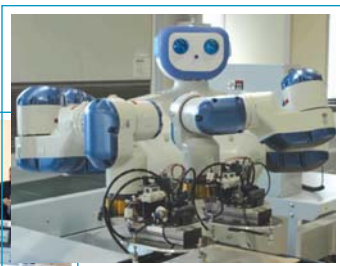
物流業界は物流量変動に対応した人員確保と作業環境の改善が大きな課題ですが、今回のデモは、「ロボットを可動式にすることで物流量変動への対応を可能とした」「起立状態での繰り返し作業の代替を行うことで作業環境の改善を行う」という課題克服に向けたものとなっております。

今後は3社共同でまずは物流分野でのロボット導入を推進していきますが、推進の過程ではロボットの作業範囲を順次広げることによって機能を進化・充実させ、物流分野以外の非製造業分野への導入を進め、少子高齢化による労働力不足という課題克服に貢献していきたいと考えています。

ホクショー（株）殿のホームページ：<http://www.hokusho.co.jp/>

■お問合せ先： 新規事業推進室 Tel 03-5402-4907 Fax 03-5402-4580

設置した7軸双腕ロボット ▶
MOTOMAN-DIA10



◀ ホクショー（株）殿の営業管理職向け説明会の様子

「翼竜展」にモーションディスプレイ「翼竜つばさ」を展示

2007年7月7日から9月2日の間、北九州市立いのちのたび博物館で開催された「世界最大の翼竜展（朝日新聞社主催）」に当社が開発したモーションディスプレイ「翼竜つばさ」を展示しました。

翼竜展は「恐竜時代の天空の支配者」「スカイモンスター」と呼ばれる翼竜^{*}を紹介する、日本初の展覧会です。史上最大の飛行生物「ケツアルコアトルス」（翼開長約10m）の全身復元骨格や、中国で近年発掘された世界初公開の貴重な化石等、翼竜の生態をリアルに伝える展示が特長です。その中に、「ぜひ動く展示を

加えたい」との要望を請けて、当社はモーションディスプレイ「翼竜つばさ」を開発しました。

「翼竜つばさ」は、当社のコントローラMP2300SとΣ-IIIサーボバックにより、翼竜の羽ばたきや着陸時の翼の折り畳み動作を再現する、「動く骨格模型」です。実物に近い細い骨格を表現するため、左右6つある翼の関節は全て胴体に内蔵したモータからワイヤを介して駆動しています。

翼竜展では訪れた多くのお客様、特に子どもたちが「翼竜つばさ」の前で立ち止まり、興味を示してくださいました。博物館学芸員の方や、翼竜展を監修した外国の先生にも大変好評をいただきました。

現在、同展覧会は9月15日から11月25日まで大阪市立自然史博物館で開催されており、当社の「翼竜つばさ」も引き続き展示されています。今後も当社の技術力を新領域、新市場に展開する活動を推進するべく、挑戦を続けていきます。

^{*}翼竜は、恐竜には分類されない爬虫類で、未だ鳥類がいない三畳紀～白亜紀（約1億5000万年）の間、地球上の空を支配していたと言われています。

翼竜展のホームページ：<http://www.asahi.com/yokuryu/>

開発者の声：

3ヶ月と短い製作期間に、ゼロから設計を始め、長期間展示に耐えうる信頼性を確保するために昼夜連続の動作試験を行ったり、なめらかな羽ばたきの動作を再現するために鳥に関する文献を調べたりと、普段の開発と違う苦労がありました。来館したお客様が感嘆される様子を見ると、社会貢献できたという充実感とともに、この仕事に関わって良かったと思います。

「翼竜展」会場風景 ▶



▼ モーションディスプレイ「翼竜つばさ」



■お問合せ先： 技術開発本部 ニューメカトロニクス事業化推進室 Tel 093-571-6112 Fax 093-571-6044